

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「MSCIインデックス・セレクト・ファンド コクサイ・ポートフォリオ」は、このたび、第18期の決算を行いました。

当ファンドは日本を除く世界各国の株式（DR（預託証券）およびカントリーファンドを含みます。）を実質的な主要投資対象とし、投資信託財産の長期的な成長を図ることを目的として、積極的な運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



MSCIインデックス・
セレクト・ファンド
コクサイ・ポートフォリオ
追加型投信／海外／株式／インデックス型



第18期末（2015年11月19日）	
基準価額	19,620円
純資産総額	2,487百万円
第18期	
騰落率	4.0%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記<お問い合わせ先>のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

交付運用報告書

第18期

（決算日 2015年11月19日）

作成対象期間（2014年11月20日～2015年11月19日）

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<お問い合わせ先>

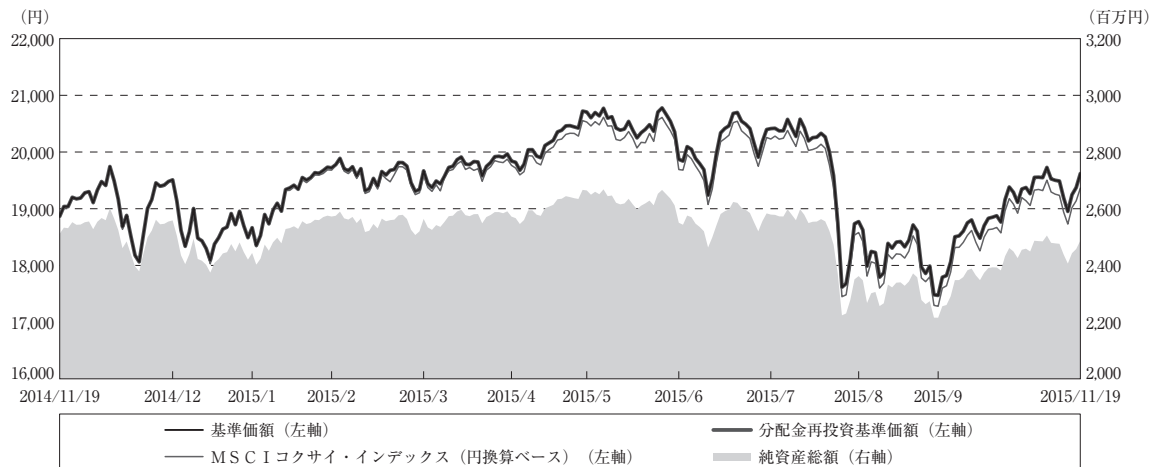
お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100
（受付時間：毎営業日の午前9時から午後5時）

ホームページ <http://www.invesco.co.jp/>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2014年11月20日～2015年11月19日)



期 首：18,867円

期 末：19,620円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰 落 率： 4.0% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびMSC I コクサイ・インデックス (円換算ベース) は、期首 (2014年11月19日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) ベンチマークはMSC I コクサイ・インデックス (円換算ベース) です。ベンチマークの詳細は11ページをご参照ください。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- ・日本を除く世界各国の株式 (DR (預託証券) およびカントリーファンドを含みます。以下同じです。) を実質的な主要投資対象としているため、アイルランド、デンマーク、ベルギーなどの株式市場が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
- ・実質外貨建資産の対円で為替ヘッジを行わなかったため、実質組入外貨建資産の通貨である香港ドル、米ドルなどが対円で上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

[下落要因]

- ・日本を除く世界の先進国の株式を実質的な主要投資対象としているため、シンガポール、カナダ、ノルウェーなどの株式市場が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。
- ・実質外貨建資産の対円で為替ヘッジを行わなかったため、実質組入外貨建資産の通貨であるノルウェークローネ、オーストラリアドルなどが対円で下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

(2014年11月20日～2015年11月19日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 189 (84) (84) (21)	% 0.972 (0.432) (0.432) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券) (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	2 (1) (0) (1)	0.011 (0.004) (0.000) (0.007)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	1 (0) (0)	0.003 (0.003) (0.000)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷 費 用) (そ の 他)	20 (3) (6) (10) (1)	0.104 (0.017) (0.031) (0.051) (0.006)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、目論見書や運用報告書等の法定書類の作成・印刷に要する費用等 その他は、外国有価証券に係る税金および信託事務の処理に要するその他の費用等
合 計	212	1.090	
期中の平均基準価額は、19,440円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

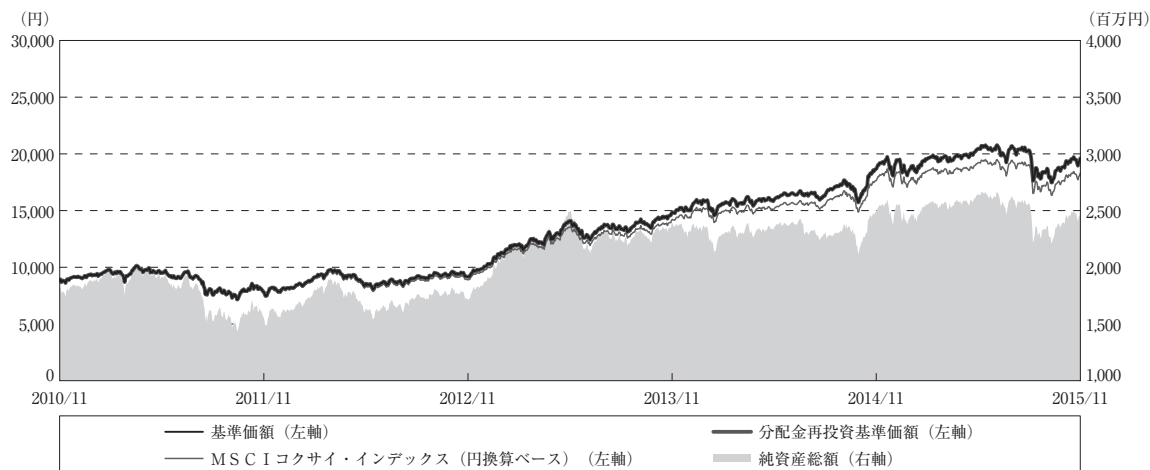
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2010年11月19日～2015年11月19日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびMSCI I コクサイ・インデックス(円換算ベース)は、2010年11月19日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2010年11月19日 決算日	2011年11月21日 決算日	2012年11月19日 決算日	2013年11月19日 決算日	2014年11月19日 決算日	2015年11月19日 決算日
基準価額 (円)	8,925	7,846	9,235	14,799	18,867	19,620
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△12.1	17.7	60.2	27.5	4.0
MSCI I コクサイ・インデックス(円換算ベース)騰落率 (%)	—	△13.2	15.7	58.2	25.9	2.6
純資産総額 (百万円)	1,819	1,561	1,730	2,367	2,511	2,487

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) ベンチマークはMSCI I コクサイ・インデックス(円換算ベース)です。ベンチマークの詳細は11ページをご参照ください。

投資環境

(2014年11月20日～2015年11月19日)

S & P 500指数 (米国)	+1.6%	F T 100指数 (イギリス)	△5.5%
D A X 指数 (ドイツ)	+17.0%	C A C 40 指数 (フランス)	+15.2%
米ドル/円	123円56銭 (前期末117円02銭)	ユーロ/円	131円90銭 (前期末146円56銭)

※株価指数の騰落率は当期末時点 (対前期末比)、米ドル/円およびユーロ/円は当期末の数値です。

＜米国株式市場＞

米国株式市場は、期初から2015年8月中旬頃までは、おおむね緩やかに上昇する展開となりました。商品市場の下落や利益確定売りなどの要因で下落する局面があったものの、好調な企業業績や底堅いマクロ経済指標などを背景に景気の先行きに対する楽観的な見方は根強く、一時的な下落局面はあったものの、株価は大きく底割れすることはありませんでした。しかし8月下旬の中国株式市場の大幅な下落に端を発した世界的な株価下落によって、米国市場も大きく下落しました。その後期末にかけては、利上げが先送りされたことなどから株価は値を戻し、通期では上昇して期末を迎えました。

＜欧州株式市場＞

欧州株式市場は、期初から2015年4月下旬まではおおむね堅調に推移したものの、その後はギリシャ債務問題や不安定なユーロ相場などから市場心理が悪化し、下落基調となりました。さらに8月下旬になると、中国株式市場に端を発した世界的な株価下落により欧州市場も大きく下落しました。加えて9月に独大手自動車メーカーが環境基準テストで不正を行っていたことが発覚し、自動車関連企業を中心に株価が下落しました。その後10月に入り決算発表が本格化すると、おおむね企業業績は良好な内容となったことなどを受け株価は持ち直しました。米国で利上げが先送りされ、緩和的な金融環境が継続するとの期待も株価を下支えしました。

＜アジア株式市場＞

アジアの先進国株式市場は国ごとにまちまちな展開となる局面があったものの、期を通じては下落しました。期初より2015年5月下旬までは株価は底堅く推移したものの、それ以降は中国を中心に景気に対する先行き不透明感が広がったことで下落基調となりました。特に8月下旬に起きた中国株式市場の大きな下落は欧米市場にも波及するほどの規模となり、市場心理を大きく悪化させました。さらに独自自動車メーカーの不正問題も、アジア地域に大規模な生産拠点を持ち売り上げに対する影響も大きいことなどから、下落基調に拍車をかけました。期末にかけて市場はやや持ち直したものの、通期では下落となりました。

＜為替市場＞

為替市場は、期初1米ドル117円前後でスタートしたあと、2015年5月中旬まではおおむね120円を中心に狭いレンジでの推移となりました。その後、米国のマクロ経済指標がおおむね堅調に推移していることなどを背景に米連邦準備理事会 (F R B) が年内の利上げを示唆したことをきっかけに米ドルは上昇に転じ、一時125円台となりました。しかし8月下旬に世界的に株価が下落すると、この利上げ見通しが後退したことで米ドルを売る動きが広がり、結局期末には123円台となりました。

期初146円台だったユーロは、ギリシャ債務問題などを背景に下落し2015年4月には127円を割り込む水準となりました。その後もユーロに対するリスク回避姿勢が継続したことで、135円台を中心に狭い範囲での動きとなり、132円近辺で期末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

(2014年11月20日～2015年11月19日)

主として、MSC I コクサイ・インデックス・マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）に投資を行い、マザーファンドを通じて、日本を除く世界各国の株式に投資を行いました。また、実質外貨建資産の投資にあたっては、為替ヘッジは行いませんでした。

マザーファンドでは、主として日本を除く世界各国の株式を投資対象とし、MSC I コクサイ・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果を目指しました。具体的には、ファンド内のキャッシュポジションを低位に保ちながら、保有する銘柄のコーポレートアクション（買収、増資、スピンオフなど）に対応した結果、ほぼベンチマークに連動したパフォーマンスとなりました。

2014年11月末、2015年2月末、5月末、8月末にベンチマーク採用銘柄の入れ替え（Quarterly Index Review）が行われましたが、ファンドでもこれに対応するための売買を行い、ベンチマークへの連動性を維持する運用を行いました。

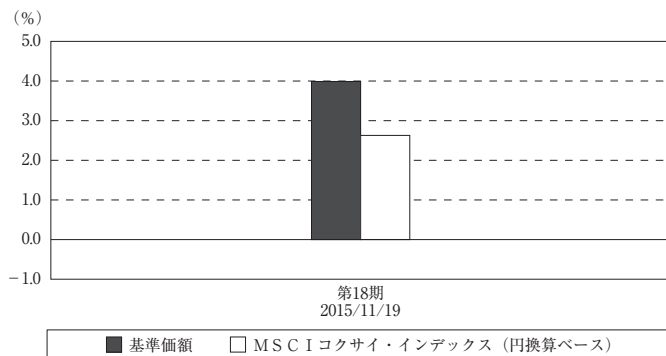
当ファンドのベンチマークとの差異

(2014年11月20日～2015年11月19日)

当期の基準価額騰落率は+4.0%となり、ベンチマークであるMSC I コクサイ・インデックス（円換算ベース）の騰落率+2.6%を上回る結果となりました。

一般的に、インデックス・ファンドのパフォーマンスがベンチマークから乖離する要因としては、配当金（プラス要因）、信託報酬（マイナス要因）、取引や管理にかかるコスト（マイナス要因）による要因の他、個別銘柄の組入比率がファンドとベンチマークで若干乖離していることによる要因や、ファンド内でキャッシュを保有していることによる要因などがありますが、当期においては主に配当金の要因によりプラスの乖離となりました。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) ベンチマークは、MSC I コクサイ・インデックス（円換算ベース）です。ベンチマークの詳細は11ページをご参照ください。

分配金

(2014年11月20日～2015年11月19日)

収益分配金につきましては、基準価額水準などを勘案し、当期は見送りとさせて頂きました。収益分配金に充てなかった収益につきましては、投資信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第18期
	2014年11月20日～ 2015年11月19日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	12,240

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

主としてマザーファンドに投資を行い、マザーファンドを通じて日本を除く世界各国の株式に投資を行います。また、実質外貨建資産の投資にあたっては、原則として為替ヘッジは行いません。

マザーファンドでは、主として日本を除く世界各国の株式を投資対象とし、MSC I コクサイ・インデックス(円換算ベース)に連動する投資成果を目指します。インデックス・ファンドの性格に鑑みて、ポートフォリオの最適化に注力してベンチマークとの乖離を極力低くしていきたいと考えています。

お知らせ

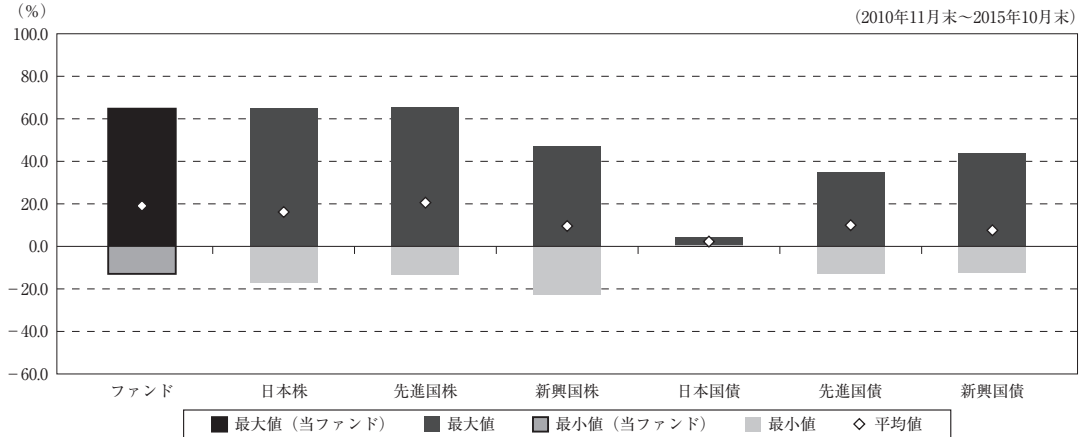
- ・金融商品取引法および投資信託及び投資法人に関する法律等の改正に係る政令・内閣府令、一般社団法人投資信託協会の諸規則等が施行・実施されたことに伴い、①運用報告書の電磁的方法による交付、②デリバティブ取引に係るリスク管理の方法-について関連する条項に変更を行いました。(2014年12月1日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式／インデックス型	
信託期間	無期限	
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「MSC I コクサイ・インデックス・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とし、投資信託財産の長期的な成長を図ることを目的として、積極的な運用を行うことを基本とします。 ・実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 	
主要投資対象	MSC I インデックス・セレクト・ファンド コクサイ・ポートフォリオ	MSC I コクサイ・インデックス・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	MSC I コクサイ・インデックス・マザーファンド	世界各国の株式（DR（預託証書）およびカントリーファンドを含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主として、マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を除く世界各国の株式に投資します。 ・グローバルな収益機会を最大限に追求するため、MSC I コクサイ・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果を目指します。 	
分配方針	原則として年1回の毎決算時（11月19日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に、委託会社が基準価額の水準等を勘案し、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	19.1	16.2	20.6	9.6	2.3	10.0	7.6
最大値	64.8	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	-12.9	-17.0	-13.6	-22.8	0.4	-12.7	-12.4

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2010年11月から2015年10月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株: TOPIX (東証株価指数) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債: NOMURA - BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P11の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2015年11月19日現在)

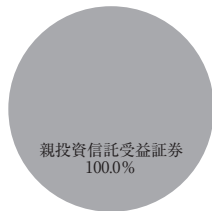
○組入上位ファンド

銘柄名	第18期末
MSC I コクサイ・インデックス・マザーファンド	100.0%
組入銘柄数	1銘柄

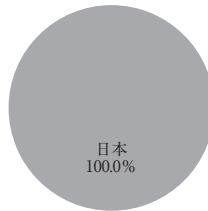
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

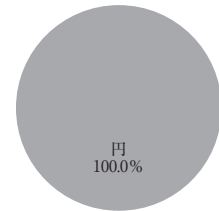
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

純資産等

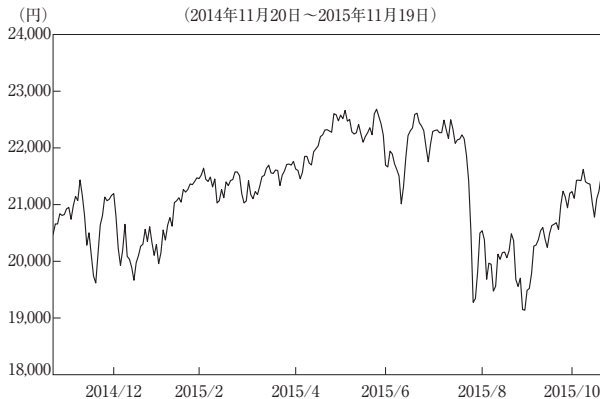
項目	第18期末
	2015年11月19日
純資産総額	2,487,593,348円
受益権総口数	1,267,857,158口
1万口当たり基準価額	19,620円

* 期中における追加設定元本額は145,894,604円、同解約元本額は209,347,446円です。

組入上位ファンドの概要

MSC I コクサイ・インデックス・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2014年11月20日～2015年11月19日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株資信託証券) (先物・オプション)	2円 (1) (0) (2)	0.011% (0.004) (0.000) (0.007)
(b) 有価証券取引税 (株資信託証券)	1 (1) (0)	0.003 (0.002) (0.000)
(c) その他費用 (保管の費用)	5 (3) (1)	0.023 (0.016) (0.006)
合計	8	0.037

期中の平均基準価額は、21,201円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2015年11月19日現在)

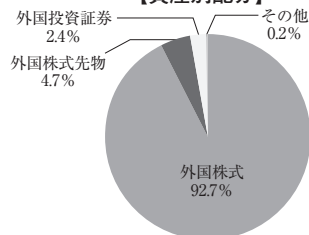
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 S&P500 EMINI	株式先物(買建)	米ドル	アメリカ	3.1%
2 APPLE	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	米ドル	アメリカ	2.1
3 MICROSOFT	ソフトウェア・サービス	米ドル	アメリカ	1.3
4 EXXON MOBIL	エネルギー	米ドル	アメリカ	1.1
5 GENERAL ELECTRIC	資本財	米ドル	アメリカ	1.0
6 JOHNSON & JOHNSON	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	米ドル	アメリカ	0.9
7 WELLS FARGO	銀行	米ドル	アメリカ	0.9
8 AMAZON.COM	小売	米ドル	アメリカ	0.8
9 JPMORGAN CHASE & CO	銀行	米ドル	アメリカ	0.8
10 NESTLE-REG	食品・飲料・タバコ	スイスフラン	スイス	0.8
組入銘柄数		1,338銘柄		

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

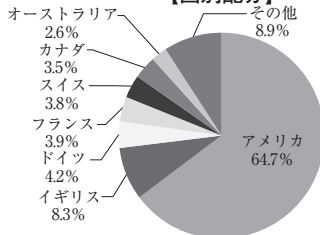
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

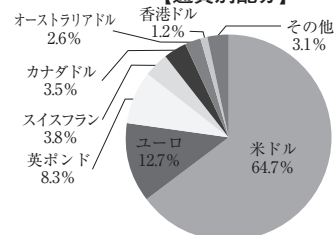
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

＜当ファンドのベンチマークについて＞

ベンチマークとして、MSCIコクサイ・インデックス（円換算ベース）を使用しています。基準日前営業日の米ドル建て指数を基準日の対顧客電信売買相場仲値を用いて当社が独自に円換算しています。

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI – EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM/ロイター値）を乗じて算出しています。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.